



# ヨシちゃんのと ひとりごと



ヨシちゃんこと私8才。若い心算だったが、最近?昔のことは覚えても、今のことを忘れることが多い。ヒョットするとそれも忘れる様になるかも?。それで店と私のことを数回にわたって、この欄に書きつけて戴くことにした。お許しを賜りたい。

## 時は流れる①

祖父喜一

郎が大正二年に、夫婦で勤めてた醤油店・屋号津之興(現サクルの場所)にあたる業務を引き継ぎ丸津の屋号で現在地の東4軒目の家でスタートした。丁度大正天皇の御大典の年。陛下が行列が泉涌寺に行かれるのを拝んだといっていた。その頃、現七条大橋が完成。七条通り拡幅市電設置、東海道線の東山トンネル工事もあり、それに携わる人で超繁盛し、現在地(借家)に移った。番頭、丁稚、お手伝い女性もいて、店先はカウター付きの酒場になっていた。独立させた店の人や親戚に手印銘柄清酒「神馬」(シンメ)を売る酒場営業を勧め、今のチエン店のような形式で八店舗が月一度、店に集まり、会合していた。(昭15まで)今も酒場を千本中立売の神馬酒場」と北区新町の「新しい酒場」がなまっています。



本中立売の「神馬酒場」

敗戦直後、祖父が没し、父一郎が引継ぎ、昭和24年、酒の卸免許を得て酒問屋、酒谷本店写真②になった。倉庫、奥の蔵まで線路を付け、トロッコで運んだ。酒免許制限で、卸は

小売り禁止されており、従来の小売から撤退した。当初は順調な業績だったが、昭27年多額に横領事件が発生し、その裏付け調査で、税務署と警察が、お得意先の酒小売店に入った。当時は、米不足で配給の時代、酒米が不足で、清酒醸造石数も制限のある時代。お得意先の要望に



250万出資で株式会社酒谷本店で再出発になった。

## 稲荷山 ぶらり散歩記 越智薫史



和銅4年(711年)に秦氏の神さんが下社に舞い降りたのが始まりとある。今でも二の峰にある下社の白菊大神が最も崇拜され、

伏見稲荷大社は初もうで客で大賑わいである。様々な願いを込めての参拝であろう。伏見稲荷大社の神さんは、そもそも何の神さんやうかと思っ

## 一億総輝き 石動敬子

国の予算があれこれ審議され出し

た。正月の4日に国会招集と俄かに決まったようだ。さんざん、遅れていたが、18歳選挙権の実施の日程を逆算してのこととか。相変わらずの計算ずく。家庭ひとつでも、限りある予算の配分には心をくぐく。冷暖房や交通費、など切り詰めても、実現したい夢は、などと。勿論無駄を削って全体像を見極める力がなければ無理。まして、国政の規模をや。素人目にも、白紙撤回や、おわびなどの多いなか、部分的手直しでやっていけることか?

二の峰の中社の青木大神とともに農耕の神としてあがめられている。一の峰の上社は末広大神と呼ばれ、もと以前から鎮座されていた狩猟の神さんだという。秦氏はこの深草の地域を支配したが、土着の狩猟の神はそなたりを恐れてか、残したのであろう。深草地域に住んでいた縄文人が稲作農氏に屈服した時代の話である。



稲荷山はこの三つの峰の神さんを中心に、あちこちに、お塚様(真)と呼ばれる石の郡と鳥居からなる大小さまざまの神さんが鎮座している。

偶然飛び込んでくるものとの反応を楽しみます。それは、一枚のイロハ紅葉だったり、ミニコンサートの案内、半額セールの商品だったり。で、苦手で全くダメだったことに挑戦することになったりもします。

この夏の、あの国会運営は、どう考えても、忘れるわけにはいかない。本音剥き出しの無法ぶりこそ選挙であぶりだされなければまたまた「つけ」を次世代に残すことになりませう。とまあ、年の瀬の手足を動かしながら、独りぶつぶつとあれは、ちよいと外出を私は楽しみませう。歩きながら、動きながら、

我々も神さんを作ろうと思えば、伏見稲荷大社の許可を得て、なんとか大明神と名前を付けて、ここに祀ればよいのである。近代では商売の神さんというのが主流にならているが、なんでもありのようだ。

稲荷山はこの三つの峰の神さんを中心に、あちこちに、お塚様(真)と呼ばれる石の郡と鳥居からなる大小さまざまの神さんが鎮座している。話を少し飛躍するかもしれないが、

# 京都&東山 ぶらりピカリ

66

## 七条通

しちじょうとおり

七条通烏丸

⑨ 下がる西側、今は、ヨド

## 物産館

ぶっさんかん  
バシカメラ

百貨店」、更にその前は(通称ブツカンと呼ばれる)丸物百貨店だった。その創業者中林仁一郎氏が京都駅近くで「京都物産館」という店を開店、そのマーク(○の中に物産館の物)とロゴの決め、事業を拡大、他の地域へ出店を経緯に、2012年に「丸物(マルブツ)」に改称された。が、「丸物」と代わっても、祖母達の世代は、使い慣れた「物産館」を使っていた。幼児だった私は、店が忙しくなると祖母は、マーチ(丁稚)に私を「物産館」へ連れて行くと命じ、屋上で、馬やゲームで遊んだ記憶が有る。丸物北隣りの七条警察署を舞台に、敗戦翌年(1946・1・15) 大事件「七条警察署巡査殺害事件」が起った。事件は、七条警察署員



が「ヤミ米買出し」をしていた朝鮮人を物価統制令違反として現行犯逮捕した事から始まる。連行の途中、犯人は隙を見て逃走、在日本朝鮮人連盟の支部に逃げ込んだ。警察は引渡しを要求したが朝連側は拒否。1月24日、朝鮮人40人が七条警察署に押しかけ、署長に抗議した。それに対し、終戦直後より朝鮮人と対立していた駅付近に多く住む的屋・博徒達が、在日朝鮮人が、七条署に押しかけるとの情報を知り、急遽200人が警察の応援に駆けつけ防衛体制をとった。このときの屋側には、朝鮮人排除を助けることで警察に恩を売り、見返りとして、七条署管内の駅周辺の「闇市場」で自分たちへの取締を手加減して貰おうとの想いが有ったのだろうか(?)。

七条署を襲った朝鮮人達が、署長に手錠をかけようとした寸前、署員と共に的屋博徒の集団が署長室にだれだれ込み、朝鮮人を実力で排除した。その後、朝鮮人は反撃のために約200人を集結させ、京都駅前(的屋・博徒と大乱闘)になった。警察は、急遽米占領軍MPOの行動を要請、MPOが駆けつけ漸く沈静化した。この事件で、被博徒集団側1人、朝鮮人数人死亡、負傷者も多数有った。



京都駅から北の烏丸通り(昭27) 右の3階建ビルは中央郵便局、その北側のビルは「丸物百貨店」

事件で学校も休校、私は友人たちと、野次馬で近くまで見にいったが、竹槍や日本刀を持った博徒風集団が、烏丸通で警察署を護るように焚火を囲み屯し、怖くて近寄れ無かった。敗戦直後の大事件だ。

# 市電が走った 京都を巡る

59

福田静二



西大路線の市電は、

衣笠駅前を出発、北へ向かって走り始めます。車窓正面の左大文字山は、ますます大きくなって近づいてきますが、しばらく走ると、西大路通はやや北東へ向きを変えて、左大文字は車窓左手に移ります。西大路通は、ほぼ一直線で南北を貫いていますが、唯一、はつきり分かるカーブです。この理由は、地図を見れば明らかです。まっすぐ進むと、左大文字の麓にある金閣寺にぶつかってしまい、す。昭和初期の西大路通の拡張、市電敷設の時、金閣寺に敬意を表して、市電みずからカーブして避けたものと思われま。

そのカーブ地点の右手に、うつそうとした森と土塀が続きます。平野神社です。平野神社は、平安京遷都



わら天神前停留場の京都市電

に伴い平城京から遷座・勸請したのに始まり、延暦十二年に創建された。当時は京都御所に匹敵する広さがあつたそうですが、現在は東西二百メートル四方の神域です。本殿は平野造りと言われ、四棟のうち二棟がつながっている形式で、一般の神社とは少し違います。

平野神社の神紋は桜です。平安中期、花山天皇が境内に数千本の桜を植えたことに始まります。江戸時代には、すでに平野の夜桜として全国的に桜の名所として知られます。現在でも京都屈指の桜の名所で、とくに珍種が多く、現在は五千種約四百本の桜が植えられています。毎年四月十日には桜祭りが行われ、花見車や御輿の行列なども練り歩きます。

そして、平野神社から少し東へ歩くと、北野天満宮の北門へと至ります。手を流れるのが紙屋川で、東側には崖の上に築かれたお土居が南北に続きます。

そしてまもなく到着するのが「わら天神前」です。京都市電では唯一のひらがな混じりの停留場名です。今でこそ、かな書きの駅名・停留場名は、よく見受けられますが、戦前生まれの停留場としては、たいへん珍しいものでした。正しく書けば「藁天神前」とするところ、さすがに漢字二辺倒の当時であっても、「藁」は難解な漢字と判断されたのでしよう。停留場設置時から「わら」でした。

西側にある敷地神社の通称です。安産の神として信仰されており、安産御守として藁が授与されることから「わら天神」の通称があります。藁に節があれば男児、節がなければ女児が誕生すると言われていました。珍しいひらがな書きの停留場名も、さまざまの歴史や由来がありました。

わら天神を西へ、衣笠山の下に、衣笠球場が有った(現在立命大)当時二リーグになつたプロ野球松竹(近畿)と近畿(近畿)の対戦が行われ、彼は和風ジョーデマシオの異名で(外、内野手)。右投げ右打ち。1950年に記録した101打点43得点576塁打はNPBシリーズ記録だ。高校生だった私は、友人と学校をサボって良く観戦に行つた。お陰で見事に志望大学は滑った。編集者余談



平野神社の前に行く

# 酒屋で生きて 生かされて



## 第百九話の①「舞鶴の福井 辛抱の辛抱」

本店京都支店合併した

子会社になった「酒問屋酒谷本店」は動き出した。それで売上が増え手狭になり、道路を空瓶置場する様になった。が、私の年収は納税



が、私の年収は納税 不要な低所得だった。店の土地建物は父の名義であるが、その家賃は、個人時代の旧債務肩代わりした「福

井本店」支配下の酒谷本店に「預け金」として「押え」られていた。既に結婚し子供も有り、何としても、酒谷の不動産を譲りたいと思っていた。それで「酒問屋」には狭すぎるので、店舗移転を福井社長に提案した。

少し話は遡るが、父が酒小売から卸に転業(昭24)する時、私は反対した。簿記会計社会科学の勉強も、時の流れで卸業の将来は難しくなると思っていた。結果は予想通りで。父は二度、元々の店を整理した。只、全く無視をせず向かい側に「酒小売店(株)いづみ屋」をつくった。それが後に、今の「株・サカタニ」になった。話を戻す。提案した移転は中々進まない。ある時点で溜められていた「預け金」が、父の旧債務の額を越えた。これなら「抵当権担

保」を外せると福井社長には事後報告することにし、会社実印を使い担保設定を抹消した。その後報告すると「背任行為で訴える」と

告すると「背任行為で訴える」として下さって結構です。私も「父の債務は無しですから、元には戻りません」と答えた。賢明な福井社長は諦めて下さって、後、上鳥羽に適地が見つかり酒問屋(株)酒谷本店は移転、社名「福井善四郎京都店」に変更。私は、常務・店長になり通勤した。年収は増えなかつた。でも、酒谷家としては他人にご迷惑を掛けず酒谷の負債完済が出来たので辛抱をした。移転した上鳥羽辺りは、当時はマダ農地が有ったが「工場や事務所」が増えつつあった。一部を「オムロンさん」に貸していた。が、勿体ないと思つてある提案した。:

## 美しい時、 崩壊の時 月三天



一月になりました。初春のお喜びを申し上げます。昨年今頃は雪で参ってしまいましたが、2015年の一月は一体どうなっているのでしょうか?

というのも、この記事を書いているのは例年通り十二月二十日頃でして、まだ年末年始の気象予測がつかない段階です。振り返れば、2015年の一年間は気候が安定しませんでしたね。雪から始まり、春が来ない。雨の降らない梅雨。夏近くの猛暑に台風、次の日が分からない気温の変化。秋雨なのにか

## SAKURA 福井 伊子 Funiki Kousetsu



## JOYZ

新しい年の始まりです。皆様におかれましては穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

七条出身のウクレレとギターのデユオ、フラーリ・パッドは、昨年、お陰様で結成10年を祝うことができました。これも偏に皆様の応援あつてこそと、本人共々心より感謝しております。こと地元の皆様には、幼い頃からの夢を追い続ける二人を底辺からの支えていた

りの大雨。温暖な十一月。十二月は急に来た！この通り、気候も气压もどうも安定しません。まあ、こんなことをつらつら書いてもただの愚痴ですね。新年早々、天に愚痴こぼしても仕方がありませんし、目標でも立てましょう。私はいつも通り、目の前に見えている鮮明な未来を、一つ一つ現在という時間の中に作り上げていくことです。学生を卒業すると、成績や点数をつけてくれる人がいなくなります。そうなると、人間の弱い所で、なやなあに日々過しがちになります。矛盾しているかもしれません。そういう日々って、人間直ぐに飽きるんですよ。何だろう？脳みそがあって、好きなことも、嫌なことも考えて、その考えを行動に移して、失敗・中

## 編集後記

▽お詫び文  
とんからりん

元旦号は、一旦配布と郵送しましたが、3pのプリント間違いに気が着かず「誤った」ものをままだでお届けしてしまいました、ご投稿者にご指摘でビックリし、即、修正や入力をして、本来の3ページにいたしました。全く、編集者のボケミス。それで「正しいp3p4」をお届けしました。

▽もう15年以上「新聞風」読み物を出しながら、この様な凡ミスを。年の始めに元旦号でして恥ずかしい次第です。お詫びも申し上げます。

▽子供時代お正月の歌を「門松立つてえ」を門松ひっくり返して「と歌った罰」かもと思いましたが、声は消えても文字は消えませんが、重ねて詫びします。▽とんからりん「私」はこれまで、身体、家庭、仕事で何度モ「ウアカン」という事態にぶち当たつて来ました。

▽ところが、不思議な程いつも最悪寸前で、救われてきました。何方に進むかもや悩み苦しみました。選んだ方が、必ず良い方になるのです。▽今回の凡ミスも、私に対しての警告鳴らして思っています。更に本年は、重大な決断をしなければならぬ事が起こりそうです。(起こります)今回を忠告だと決め、正しい判断を致します。

▽年齢的には後期高齢者ですが、自分的には「ママ」やりたいたことが山ほど残っています。昔、よく歌った「若者の歌」の若者を年寄りに置き換えて、心の中で歌っています。アホやな

次号に続く)